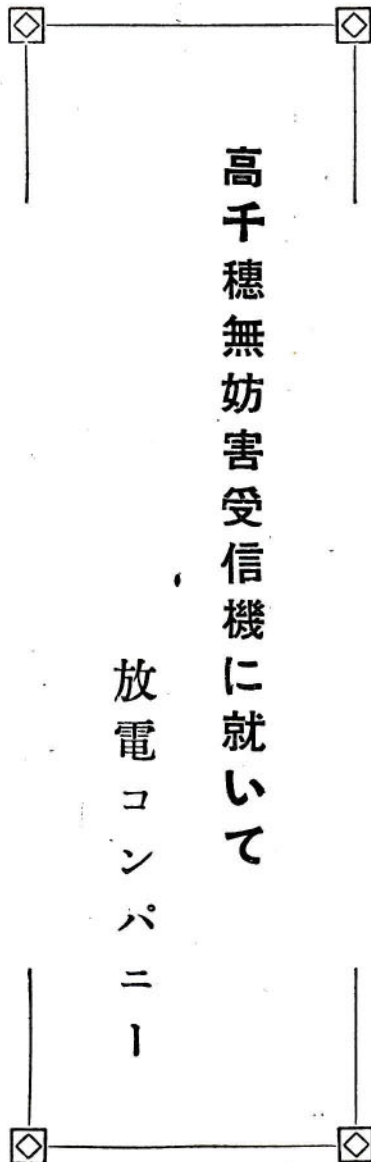


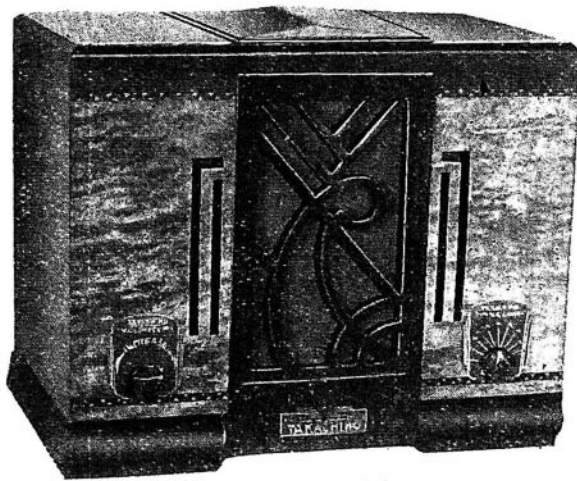
# 高千穂無妨害受信機に就いて

## 放電コンパニー



ラジオの雑音中第一位に在る雑音はラジオ聴取の際再生用豆コンの廻轉より發信する振動電流である事は我國雜音防止會の調査に依る統計の示す處であります。之が防止に就いては日本放送協會に於ても種々研究協議の結果昭和九年度に於て遍く無妨害聴取エリミネーター受信機の優秀機を全國より募集し

て再生豆コンより發振する振動電流のラジオ聴取上有害なる所以を公示せられ、併せて日本放送協會が採用せんとする處の受信機の製作標準を明示し一般受信機の動行を明かに致しました。左に一般再生式受信機の缺點を申し上げますれば再生豆コンより發振する振動電流の爲めに、

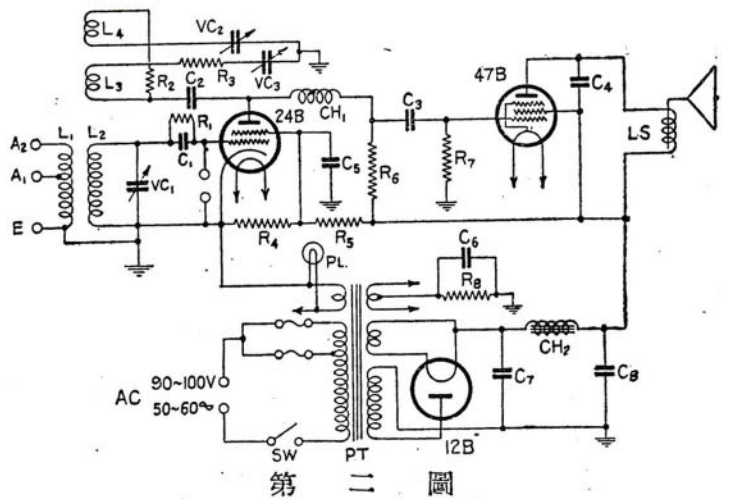


第一圖

日本放送協會認定品・逓信省特許實施  
谷村式無妨害 高千穂號三〇型 受信機

高千穂無妨害受信機に就いて

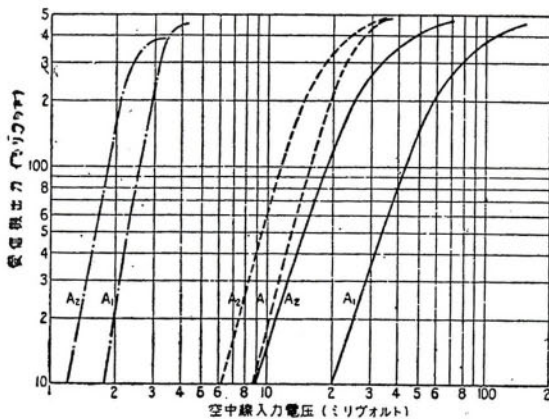
(イ) 他の受信機に再生雑音を起さしめラヂオ聴取を不能に陥らしむる事。  
(ロ) 再生に依り感度を強大ならしむる爲めラヂオの音質を歪め肉聲の聴取を不能ならしむ。  
今や國家非常時に際し一旦緩急あらばラヂオの國防化に邁進せんとする時に當り有害振動電流を發振するが如き受信機を製作する事は大いに研究せねばなりません。  
陸海軍並にラヂオ放送を直接監督する處の逓信省及び日本放送協會にては放送聴取障害防止に就いて其の具體的方法を着々準備せられつゝあります。弊社は無妨害聴取の重要性に鑑み日本放送協會が懸賞募集に係る首席當選の榮冠を擔へる丸山式高千穂號五七型、並に右懸賞に入賞したるNE式高千穂受信機發賣以來一般有識者間に多大の歡迎を受けつゝあ



第二圖

PT	電源トランス	R <sub>3</sub>	1,000 Ω
CH <sub>1</sub>	高周波チョーク	R <sub>4</sub>	0.2 meg Ω
CH <sub>2</sub>	低周波チョーク	R <sub>5</sub>	0.3 "
C <sub>1</sub>	0.000 25 μF	R <sub>6</sub>	0.15 "
C <sub>2</sub>	0.001 "	R <sub>7</sub>	0.5 "
C <sub>3</sub>	0.01 "	R <sub>8</sub>	700 Ω
C <sub>4</sub>	0.01 "	VC <sub>1</sub>	21 枚バリコン
C <sub>5</sub>	1 ケミカル "	VC <sub>2</sub>	バリオデンサー
C <sub>6</sub>	2 " "	VC <sub>3</sub>	13 枚豆コン
C <sub>7</sub>	3 " "	PL	パイロット・ランプ
C <sub>8</sub>	2 " "	SW	電源スイッチ
R <sub>1</sub>	1 meg Ω	LS	高千穂 30 號
R <sub>2</sub>	1,000 Ω		

りますが更に昨年十一月十九日附を以つて。逓信大臣望月圭介閣下より其の特許實施權の使用を得たる逓信省電氣試験所の御考案に成る無妨害特許サーキットに依り製作したる谷村式高千穂受信機は今や日本放送協會が正に一大運動を開始せんとする再生妨害防止運動と相俟つて今回愈々一般市場に見えんとするものであります。  
無妨害受信機の特徴を申し上げますれば、  
(一) 放送局より四ミリ・ヴォルト毎メートルの感度圏内に於ては凡ゆる周波數に同調せしめても再生妨害を起さず従つて他人の受信機に迷惑を掛ける再生雑音ピーピツと云ふ再生音即



第三圖

が左に其の接續圖及びデータを一併して一般の御参考に供します。谷村式無妨害高千穂號三〇型受信機の特徴第二圖の通り、再生逆再生の

(二) 放送局所在地を離れて聴取の場合は僅少なる振動電流の發振に依り一段と其の感度と聲量を豊富ならしむ。  
(三) 操作並に取扱最も簡單なり従つて故障少なし  
以上は無妨害聴取エリミネーター受信機に就いて大要を述べた次第であります  
に左に其の接續圖及びデータを一併して一般の御参考に供します。  
谷村式無妨害高千穂號三〇型受信機の特徴第二圖の通り、再生逆再生の

